

本の紹介をしよう！！

－図書館クイズと書評－

- 1 科目名 国語総合
- 2 単元名 表現Ⅱ 小説のPR文を書く
- 3 教材名 読み手を意識して書く（ワークシート、プリントは別紙1，2）
- 4 単元の内容

単元の目標 と評価規準 ・評価方法	<p>①単元の目標</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ア 本に書かれた情報を効率よく読み取ろうとすることができる。 （関心・意欲・態度）</p> <p>イ 既読の教材を活用し、自分で選んだ小説の魅力进行分析することができる。 （読む能力）</p> <p>ウ それぞれが選んだ小説の魅力を文章にまとめることができる。（書く能力）</p> </div> <p>②単元の目標設定の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットやSNS、マスメディアなどから発信される情報が氾濫する社会の中、生徒たちは様々な生きづらさを抱えている。その中で、図書館という場と小説というツールを活用し、二本立てで必要な情報を検索し、取捨選択してまとめる力をつけたいと考えた。図書館では膨大な本の中から必要な情報の載った本を選ぶ。小説では、ストーリーの中から紹介に必要な要素を抽出してまとめる。これらを通して主体的に言語という情報に向き合う力をつけたい。 ・高校生は部活動の時間も長くなり、小中学校に比べて図書館に通う回数が減る。入学後半年経って生活リズムも安定した時期に図書館での授業を行うことによって、情報センターとしての図書館の価値に気づかせ、利用・活用を促進したい。 <p>③中心となる学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館での本探しゲーム・図書館クイズと書評作成を行う。本探しゲーム・クイズでは図書館全体を使い、手足も使って体験的な活動を行う。書評作成では、それぞれが選んだ好きな本に改めて向かい合い、どこが魅力的なポイントであるのかを考える。2つの異なった活動に情報の取捨選択という共通項があることを、いかに実感させるかが課題である。また、今回は本の情報の信憑性については検証していないため、今後はメディア・リテラシーの観点も取り入れた学習も設定していきたい。 <p>④言語活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本探しゲーム・図書館クイズは一人一人が違う問題を解く。書評もそれぞれの選んだ本を用いるため、個々の生徒が「専用の課題」を持って主体的に活動に取り組めるようにした。別々の課題でありながらも、生徒同士でヒントを出し合ったり教え合ったりできるよう促していきたい。 ・1年生から継続的に表現の指導を行っていくことで、入学試験や就職試験での小論文対策や大学生や社会人になった時のレポート作成へと積み上げていきたい。 <p>⑤評価</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 35%;">評価規準</th> <th style="width: 30%;">評価方法</th> <th style="width: 25%;">状況Cの生徒への対応</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;">関心・意欲・態度</td> <td>① 日本十進分類法を用いて課題に応じた本を効率よく探そうとする。</td> <td>点検（本に挟んだ名言カードの回収、クイズの答え合わせ） 観察（机間指導）</td> <td>・分類表を見ながら何番台に本がありそうか考えるよう促す。</td> </tr> </tbody> </table>		評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応	関心・意欲・態度	① 日本十進分類法を用いて課題に応じた本を効率よく探そうとする。	点検（本に挟んだ名言カードの回収、クイズの答え合わせ） 観察（机間指導）	・分類表を見ながら何番台に本がありそうか考えるよう促す。
	評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応						
関心・意欲・態度	① 日本十進分類法を用いて課題に応じた本を効率よく探そうとする。	点検（本に挟んだ名言カードの回収、クイズの答え合わせ） 観察（机間指導）	・分類表を見ながら何番台に本がありそうか考えるよう促す。						

	読む能力	① 5W1Hを使ってそれぞれが選んだ本のあらすじを掴む。	点検（プリントの提出） 観察（机間指導）	・既習の教材で行った5W1Hの分析を例に挙げ、それぞれの課題に当てはめるよう確認する。
	書く能力	① セールスポイントをはっきりさせて小説の魅力をまとめる。 ② 見やすさ・読みやすさを考えて作品を作る。	観察（机間指導） 点検（プリントの提出）	・既習の教材を例に挙げ、それぞれの選んだ小説に当てはめるよう促す。 ・レイアウトや字の大きさなどに注意させる。
成果と課題	十進分類法に基づいた配架の仕組みを知ることで、本探しゲーム・クイズに関しては「効率よく」情報を探すことができていた。また、探し終わった生徒が友達の手伝いをする場面も多く見受けられ、後半の書評でも自然と助け合う雰囲気が生まれていた。しかし、書評では本全体の莫大な情報量の中から必要なものだけを抽出することが難しかったようである。これまでに芥川龍之介『羅生門』や宇治拾遺物語『児のそら寝』、『検非違使忠明のこと』などの冒頭部分の分析は授業で行っていたものの、個々の課題に応用するのは「どこまでの範囲で分析を行えばいいのか」の判断が難しかったようである。2年生や3年生へとスパイラルをつなげることで、分析的な読解力を育てていきたい。			
アドバイス 及び 留意点	① 本探しゲームは宝探しの応用である。正解の本が明確に分かるよう、事前に名言カードを挟んでおいた。これは名言カードで心の琴線に触れる言葉に出会うことで、本との出会いの疑似体験ともなるよう考えたためである。また、図書館に行き授業の場を変えることで、教室とはまた違った生徒同士の助け合いやコミュニケーションが生まれる。それを活用しながら作品作りに持ち込むよう心掛けた。また作った作品を図書館に掲示してもらうなど、作品が人の目に触れる機会を作る工夫も行った。 ② 本探しゲームや図書館クイズは情報を検索する技術である。また、書評は情報を取捨選択しまとめる技術である。様々な調べ学習や作文の学習に応用できる技術であると考えている。最終的にはディベートでの調べ学習や論の作成へとつなげていきたい。			
小中学校との系統性	①（中学校・第1学年 目標） （2）目的や意図に応じ、日常生活にかかわることなどについて、構成を考えて的確に書く能力を身に付けさせるとともに、進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度を育てる。 ②（中学校・第2学年 目標） （3）目的や意図に応じ、文章の内容や表現の仕方に注意して読む能力、広い範囲から情報を集め効果的に活用する能力を身に付けさせるとともに、読書を生活に役立てようとする態度を育てる。			

5 単元の学習概要

時間	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応 ↓ 次時に注意すること
1	○日本十進分類法について知る。 ○本のあらすじをまとめる	・日本十進分類法を理解し、実際に図書館の中で本を探そうとすることができる 【Cオ】【言イ】 *留意点 ・該当する本が正解だと分かるよう、名言カードを挟んでおく ・5W1Hを使って、それぞれが選んだ本のあらすじを掴むことができる。 【Cイ】【言イ】	分類番号と題名から本を探そうとすることができる。【関】 ↓ 観察、カードの回収 5W1Hであらすじを把握することができる。【読】 ↓	図書館の配架に留意するよう促す。 既習の教材を例に出して助言する。

			観察・プリント点検	
2 (本時)	○クイズの答えを探す。 ○本の魅力をまとめる。	・クイズの答えを探すため、分類を考えながら本を探そうとすることができる。【Cオ】【言イ】 *留意点 ・全員分のクイズ、答え、答えが載っている本をリストアップしておき、ヒントを出せるようにする。 ・それぞれが選んだ本の魅力を文章にまとめることができる。【Bア】【言ウ】	効率よく本を探することができる。【関】 ↓ 観察 クイズの答え合わせ セールスポイントを明確にして書くことができる。【書】 ↓ プリントの点検	以下同上
3	○書評をまとめる。 ○書評の相互評価をする。	・レイアウトを工夫するなどして、分かりやすく書評をまとめることができる。【Bア】【言ウ】 ・お互いの書評を読み比べ、感想を述べあう。【Cイ】【言エ】 *留意点 ・付箋を活用し、感想を書くようにする。	見やすさ、読みやすさを考えて作品を作ることができる。 ↓ プリントの点検 他作品への評価を簡潔にまとめることができる。 ↓ 観察・付箋の点検	相互評価に使うことを知らせる。 とくによい点を見つけてコメントするよう促す。

6 第2時の学習指導案

本時の位置	2時間目 (全 3 時間)		
本時の学習目標	ア 本に書かれた情報を効率よく読み取ろうとすることができる。(関心・意欲・態度) イ それぞれが選んだ小説の魅力の魅力を文章にまとめることができる。(書く能力)		
事前の準備	① 図書館クイズを1人1題用意する。 ② クイズを印刷したプリントを机に並べ、着席できるようにしておく。 ③ プリントの裏面には作文のワークシート(200字)を準備しておく。		
	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入 15分	□前時の復習 □担当するクイズの答えを探す。	①日本十進分類法と本の探し方について確認する。 ②分類を考えながら答えの載っているような本を探し、答えを見つける	・キーワードと名言カードを見せ、図書館の仕組みを思い出せるようにする。 ・最初に分類の一覧を見せ、どこを探せば効率が良いかを考えるよう指示する。 ・目次や索引を利用して本の必要な部分だけを読むよう促す。
展開 30分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> おすすめする本のPR文を書こう </div> □選んだ本のPRポイントについて考える。	③ストーリー展開、読後感、文体の工夫などに着目してPRポイントを箇条書きに	・これまでに扱った芥川龍之介『羅生門』や宮本輝『途中下車』や古典教材を例に挙げて「ドキドキする」、「怖い」、「切ない」、「悲しい」といった言葉を出させ、具体的に考えやすくする。

	<p>□PRポイントを精選し、文章にまとめる。</p>	<p>する。</p> <p>④箇条書きにしたものから2～3点を選び200字程度の文章にまとめる。</p>	<p>目標イに対する評価規準と評価方法</p> <p>〔規準〕本の魅力を「いい話」や「面白い本」というだけでなく、更に具体的な言葉に置き換えることができる。</p> <p>〔方法〕机間指導 周囲の生徒との相談を促す。</p> <p>〔状況Cの生徒への手立て〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜその本を選んだのかという理由を「○○だからいい」や「□□なところが面白い」というように、PRポイントとなる視点を明確にした上で具体的な言葉にするよう促す。 ・ネタバレしない程度に登場人物の名前や本のキーワードを使いながら、目標の文字数に到達するよう指示する。 ・書き終えた生徒は自分で読み直して誤字脱字などの確認をするよう注意する。 ・書き終えた生徒どうしの交流を促す。
<p>まとめ 5分</p>	<p>□次時の授業の予告</p>	<p>⑤次回はあらすじとPR文を一枚にまとめることを予告する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールペンやサインペンなど清書に必要な道具を持参するよう促す。 ・3D作品にならない限り、マスキングテープやシール等でデコレーションするのも可とすることを連絡する。